

浅間山噴火に関するマニュアル

軽井沢中学校

1 状況把握

- (1) 「噴火警報」(気象庁)等により状況把握をし、教育委員会を通じて学校に入った情報は全学級に流し、全校で確認する。(必要に応じて家庭にも通知する。)
- (2) 日頃から「煙に色はついているか、量は増えていないか」や「硫黄の臭いがしないか」など、浅間山を見る習慣をつける。また、最新の噴火レベルの情報は町ホームページなどで確認する。

2 校外活動時の避難マニュアル

- (1) 噴火警報等発表される情報を的確に把握し、教育委員会との連絡を密にした上で実施するかどうか判断する。(生徒の安全最優先)
- (2) 安全確保ができない地域・施設への校外学習は計画しない。
- (3) (2)を配慮の上、総合的な学習などで校外に出る場合、噴火時の避難場所・行動の仕方を事前に学習しておく。※担任は「校外活動実施届け」に避難場所も明記する。
- (4) 校外活動中に噴火が起こった場合、次により行動する。
 - ① (3)の避難場所へ移動
 - ② 本部(学校)へ状況報告(本部は教委、必要に応じて家庭への連絡をとる)
 - ③ 本部の指示を受け、次の行動(待機、別な場所への移動、帰校、帰宅など)

3 学校時の避難マニュアル

- (1) 避難訓練時の方法を適用する。
- (2) ただし、避難場所は各教室か体育館とする。本部の放送の指示による。
- (3) 浅間山側の窓際から離れる。
- (4) 生徒の下校の仕方については、町教育委員会と相談して決める。

4 登下校時の避難マニュアル

- (1) 町教育委員会へ連絡し、情報収集に努める。
 - (2) 事前に予想される場合は、教務会を開いて対応を決める。
 - (3) 生徒が帰宅後の対応については、生徒連絡網を使って連絡し、徹底を図る。
 - (4) 登下校時に噴火が起こった場合の避難の仕方を生徒に徹底しておく。
 - ・火山灰が降ってきたらマスクなどで灰を吸い込まないようにする。(コンタクトレンズは外す。)
 - ・噴火物が降ってきたら、建物に逃げ込み浅間山側の窓に近寄らない。
(背負いカバンで頭部を保護しながら避難する。)
- 近くに建物がない場合は、木の下や橋の下などに避難をする。

